

# 日本形成外科学会

## 専門医 10症例研修記録用紙

申請者氏名

〇〇 〇〇

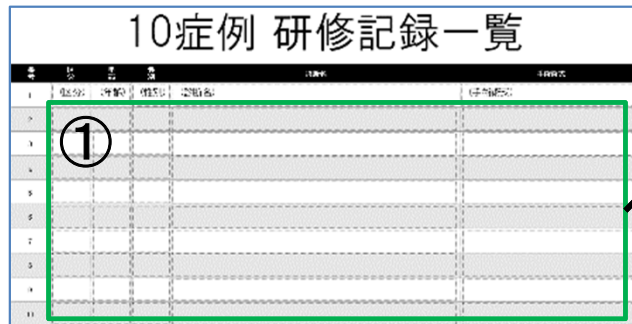
所属名

〇〇〇〇病院

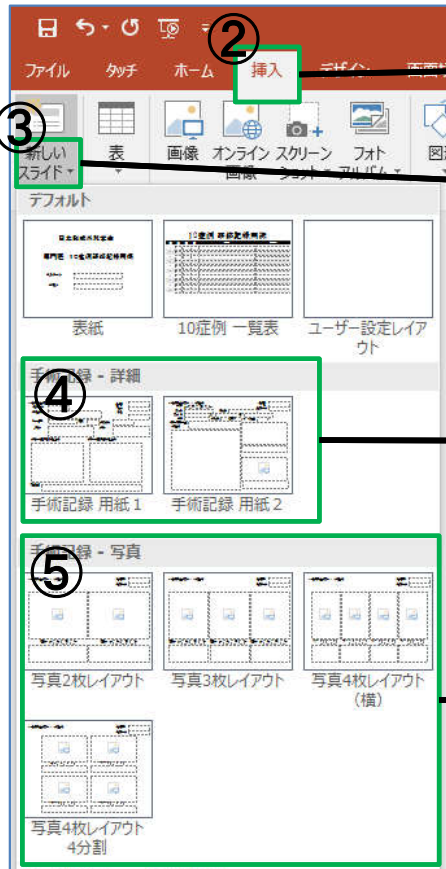
### 注意：

これはあくまでも見本であるため、年月は「20XX年X月」とし、顔写真にはガラスモザイクのアート効果をかけています。実際の提出書類では、年月は正確に記し、鮮明な顔写真を載せてください。

## 10症例 研修記録の記入方法



① 一覧表へ概要を記入します



② 挿入をクリックします

③ [新しいスライド▼] をクリックします

④ 手術記録 用紙1  
手術記録 用紙2 を挿入して記入します

⑤ 必要に応じて写真レイアウトを  
挿入して記入をします(複数枚可)

記入後の研修記録は、左側のセクションを使用して整理して下さい  
引き続き研修記録を作成する場合は、①～⑤を繰り返します

# 10症例 研修記録一覽

番号	区分	年齢	診断名	手術術式
1	I	42	右頬骨骨折	頬骨骨折観血的整復術
2	I	66	左示指指尖部皮膚欠損創	前進皮弁術 (oblique triangular flap)
3	II	21	漏斗胸	漏斗胸手術 (Nuss法)
4	II	16	尿管遺残症	尿管摘出術、臍形成術
5	II	1	右小趾列多趾症	多趾症手術
6	III	43	左浸潤性乳管癌	一次一期再建 (広背筋皮弁術)
7	V	70	仙骨部褥瘡	デブリードマン、大殿筋穿通枝皮弁術
8				
9				
10				

症例番号 1

研修施設名 ○○○○○市民病院

区分 I

 基幹施設、 連携施設、 連携候補施設

部位 頬骨

↑該当する施設にチェックしてください

カルテ番号 ○○○○○○○○

手術時年齢 42 歳

診断名 右頬骨骨折

手術名 頬骨骨折観血的整復術

## 手術前の経過・状態(検査・記録)

現病歴:20XX年X月22日、バイクに乗っていた際に交差点で車とぶつかり、当院救急受診となった。初診時右頬部の腫脹と圧痛を認めた。顔面のCT検査にて右頬骨骨折の診断となり、手術加療目的に当科紹介となった。

既往歴:なし

現症:眼球運動障害なし、複視なし

右眼窩下神経領域の知覚障害あり

開口障害なし

CT検査:Knight and North 分類groupIVの右頬骨骨折

20XX年X月4日に全身麻酔下で頬骨骨折観血的整復術を行った。

特記事項 なし

## 手術後の経過・状態(検査・記録)

術後1日目にペンローズドレーンを抜去した。

術後3日目に自宅退院となった。

術後6日目に抜糸した。

眼窩下神経領域の知覚障害に対してビタミンB12の内服を行い、術後6か月で知覚障害は改善傾向であった。

術後6か月のCT検査で骨癒合良好であった。

手術日 20XX/X/4 指導者 ○○○○ ↓該当する指導医項目にチェックの上、指導医(専門医)番号、取得年を記載してください

執刀者 ○○○○  領域指導医 指導医番号(○○○○) 取得年(○○○○年)  
 プログラム指導医(機構専門医更新1回以上) 専門医番号(○○○○) 取得年(○○○○年)

○○○○

麻酔 全身麻酔 手術時間 3 時間 43 分 出血量 10 ml

術中の特別な処置 なし

### 手術記録

体位は仰臥位とした。気管チューブは左口角固定とした。

睫毛下切開、眉毛外側切開、口腔前庭切開の3か所からアプローチした。

#### ・睫毛下切開

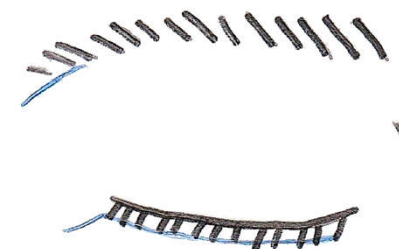
睫毛下は睫毛より尾側に切開をおいた。外側は外角から切開線を延長した。眼輪筋下を剥離し眼窩下縁に到達し、骨膜を切開した。骨膜下を剥離し、眼窩下縁の骨折線を確認し、眼窩下神経を同定した。

#### ・眉毛外側切開

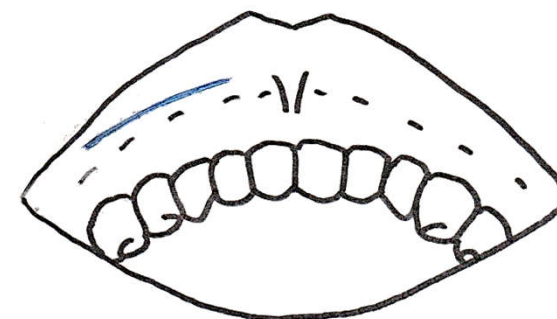
眉毛外側に切開線を置き、皮膚切開後に軟部組織、骨膜を切開し、骨膜下を剥離した。頬骨前頭縫合部の骨折線を確認した。

#### ・口腔前庭切開

口腔前庭は歯槽粘膜を10mm残し耳下腺開口部に注意して切開線をデザインした。粘膜から骨膜まで切開し、骨膜下を剥離した。骨折部は粉碎骨折となっており多数の第三骨片を認めた。



睫毛下切開と眉毛外側切開



口腔前庭切開

手術日 20XX/X/4 指導者 ○○○○

執刀者 ○○○○

 領域指導医 指導医番号 (○○○○) 取得年(○○○○年) プログラム指導医(機構専門医更新1回以上) 専門医番号(○○○○) 取得年(○○○○年)

○○○○

麻酔 全身麻酔

手術時間 3 時間 43 分 出血量 10 ml

術中の特別な処置 なし

## 手術記録

頬骨下稜から頬骨体部裏面にU字鉤を挿入し体部を挙上し、整復した。  
3か所の切開部から良好な整復位が得られたことを確認した。

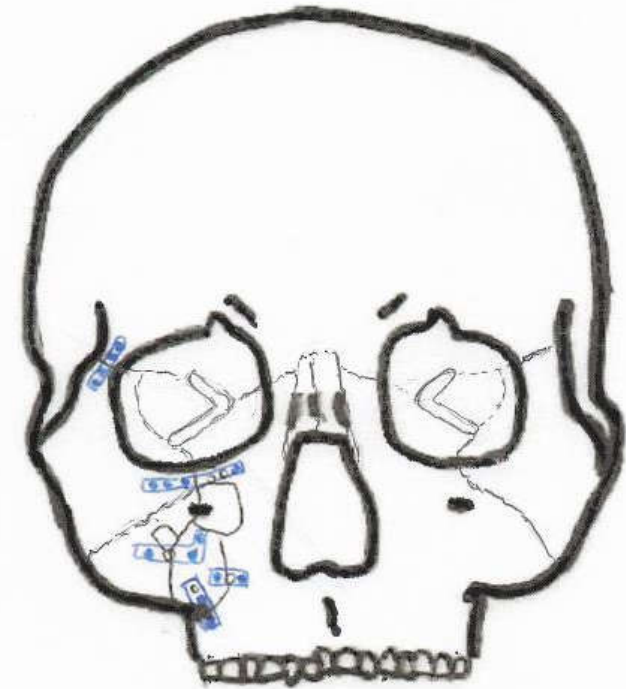
固定はすべて吸収性のプレートとスクリュー(SuperFIXSORB®MX)を用いた。  
水平方向バットレスである眼窩下縁は、6穴プレート(スクリュー4本)で固定した。

垂直方向バットレスである頬骨前頭縫合部は、4穴プレート(スクリュー4本)で固定した。

もうひとつの垂直方向バットレスであるzygomatico-maxillaryバットレスの部分は、粉碎骨折となっていたために、L型4穴プレート(スクリューを3本)、3穴プレート(スクリュー2本)、3穴プレート(スクリューを2本)で固定した。

止血洗浄後、3か所の切開部をそれぞれ閉創した。

眼輪筋下にはペンローズドレーンを挿入した。



Knight and North 分類groupIVの右頬骨骨折

1



20XX/X/3

術前 正面

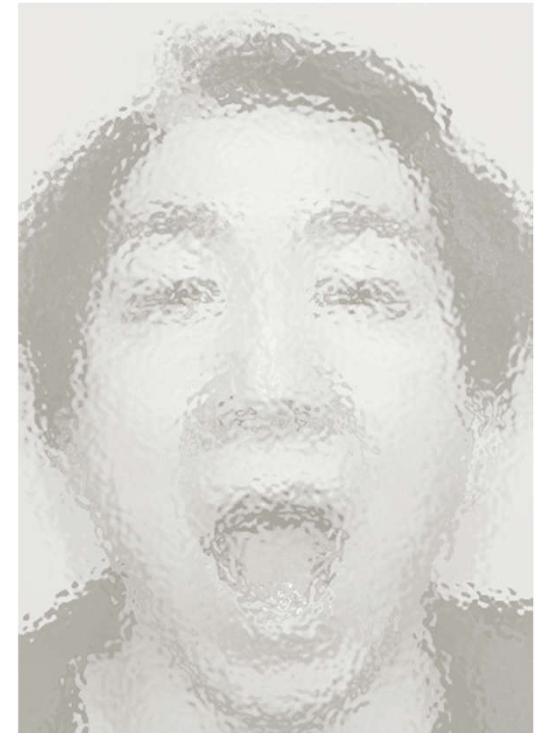
2



20XX/X/3

術前 あおり  
右頬部の扁平化あり

3

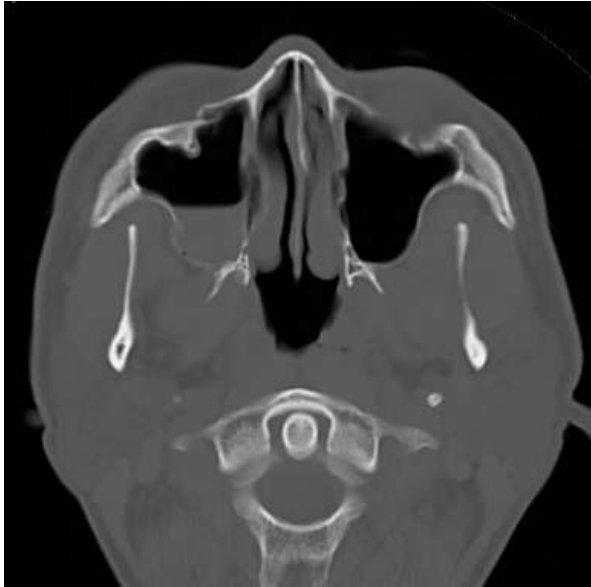


20XX/X/3

術前 開口  
開口障害なし

委員コメント:

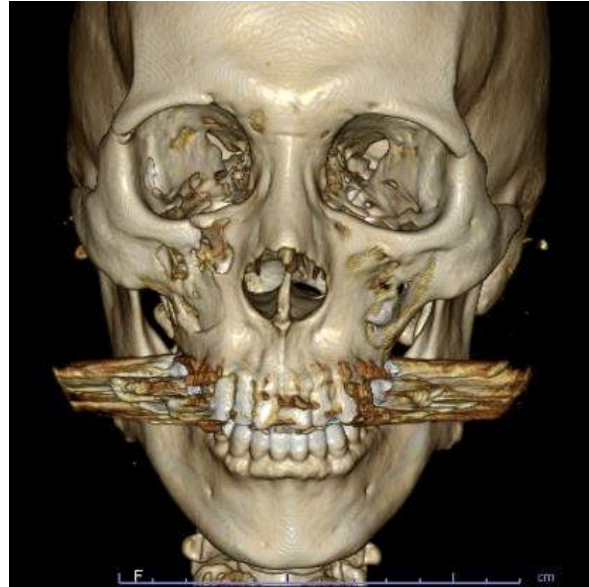
4



20XX/X/22

術前 CT画像(水平断)  
右頬骨の内側転位

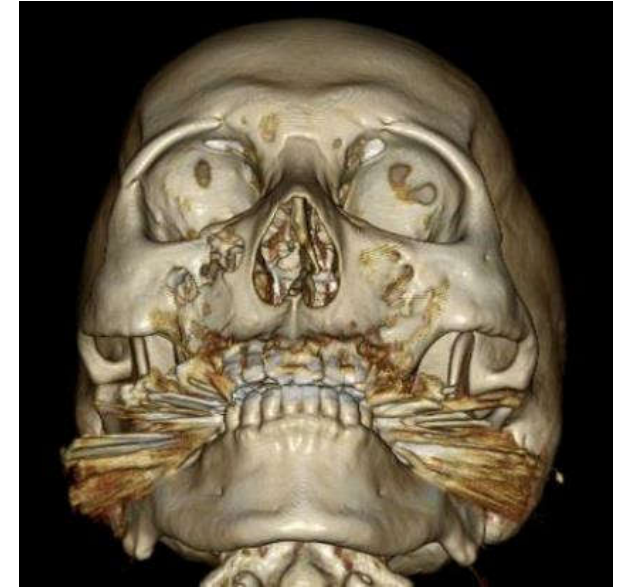
5



20XX/X/22

術前 3DCT画像  
右頬骨骨折 Knight and North 分類groupIV

6



20XX/X/22

術前 3DCT画像  
右頬骨の内下方転位

委員コメント:



7



20XX/X/4

術前

8



20XX/X/4

術前 眉毛外側切開のデザイン

9



20XX/X/4

術前 睫毛下切開のデザイン

10



20XX/X/4

術前 口腔前庭切開のデザイン

委員コメント:

11



20XX/X/4

術中 眼窩下縁骨折部  
右頬骨が内側へ転位

12



20XX/X/4

術中 頬骨前頭縫合骨折部

13

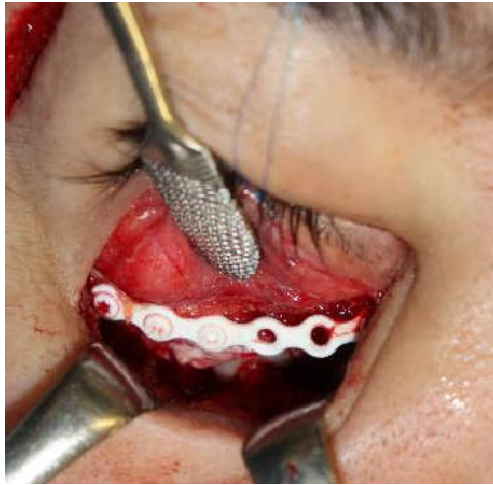


20XX/X/4

術中 頬骨下稜骨折部  
第三骨片あり

委員コメント:

14



20XX/X/4

術中 眼窩下縁骨折部  
6穴プレートで固定

15



20XX/X/4

術中 頬骨前頭縫合骨折部  
4穴プレートで固定

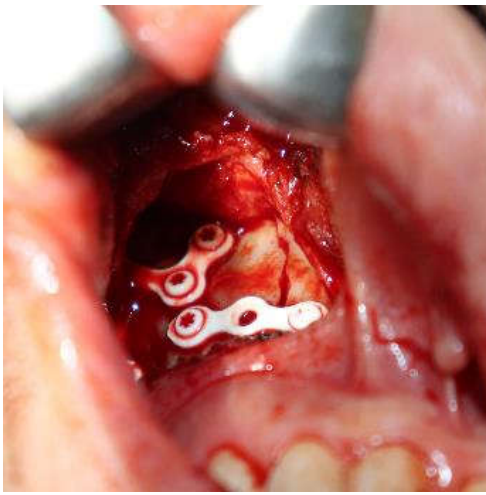
16



20XX/X/4

術中 頬骨下稜骨折部  
3穴プレートで固定

17



20XX/X/4

術中 上顎骨前壁骨折部  
L型4穴プレートと3穴プレートで固定

委員コメント:

18



20XX/X/4

術後 閉創後 睫毛下

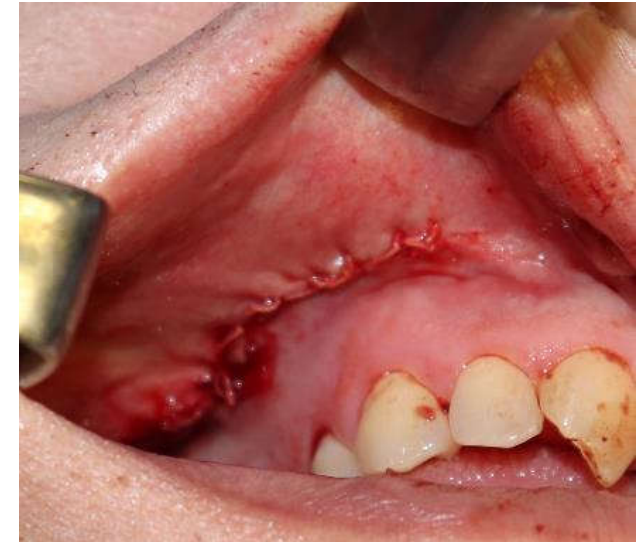
19



20XX/X/4

術後 閉創後 眉毛外側

20



20XX/X/4

術後 閉創後 口腔前庭

委員コメント:

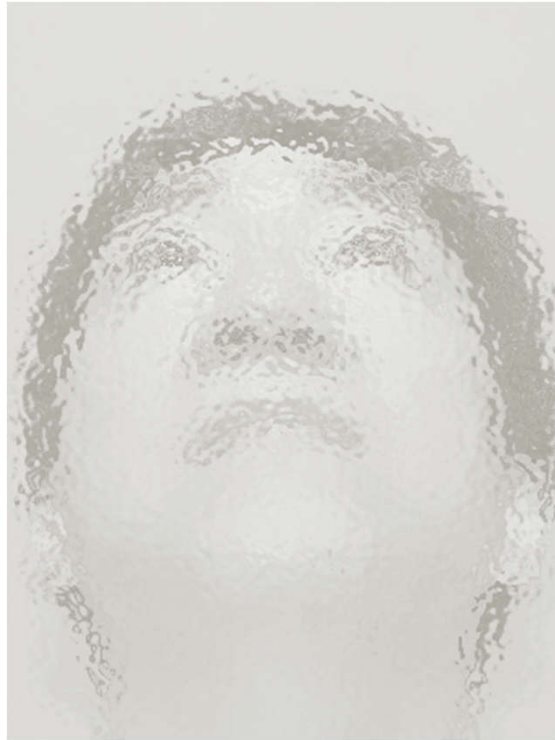
21



20XX/XX/12

術後191日経過 正面  
瘢痕は目立たない  
右下眼瞼の外反なし

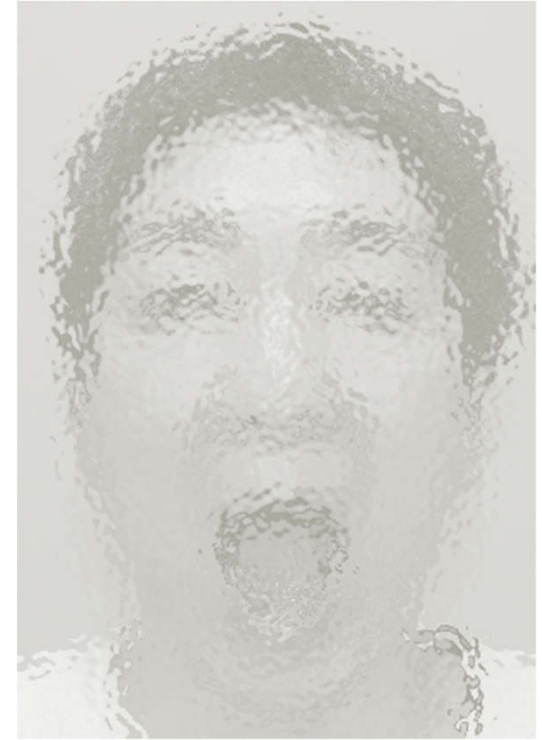
22



20XX/XX/12

術後191日経過 あおり  
右頬部の扁平化は改善

23

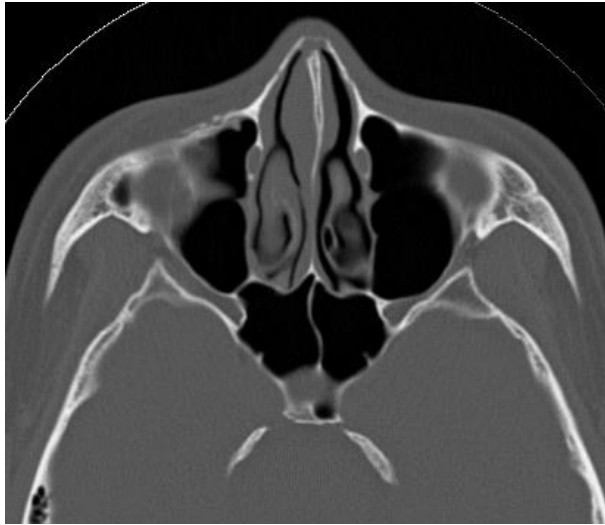


20XX/XX/12

術後191日経過 開口  
開口障害なし

委員コメント:

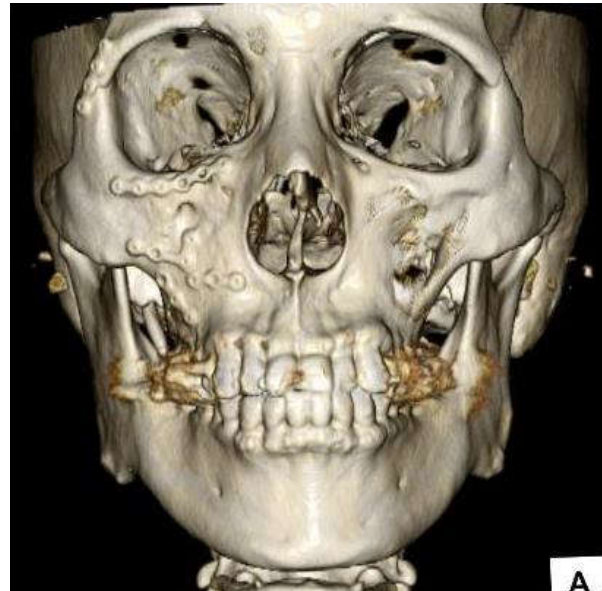
24



20XX/XX/12

術後191日経過 CT画像  
右頬骨の転位改善

25



20XX/XX/12

術後191日経過 3DCT画像  
骨癒合良好

26



20XX/XX/12

術後191日経過 3DCT画像  
骨癒合良好

委員コメント: